

大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金 報告書

Outcome report

計画名 Plan	協働デザインによる公共空間の再編手法：パリ都市計画アトリエでの実践研究
氏名 Name	吉野和泰
研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level	工学研究科社会基盤工学専攻博士後期課程 2 回生
渡航国 Country	フランス
渡航日程 Travel schedule	2022 年 9 月 12 日 ~ 2022 年 12 月 9 日

- ページ数に制限はありません。No limits on the number of pages
- 写真や図なども組み込んでいただいて結構です。You can include pictures or illustrations.
- 各項目について具体的に記述してください。Please fill in each item specifically.
- 日本語または英語で記載ください。Please use Japanese or English.

渡航計画の概要 Outline of the travel plan

本渡航計画の目的は、近年、**市民参加型の協働デザイン**によって道路を中心とした公共空間の再編を急速に進めているフランス・パリ市において、そのプロジェクトの計画と実践を主導する「**パリ都市計画アトリエ (Atelier parisien d'urbanisme, APUR)**」での実践活動を通じて、人のための空間を実現する道路デザインの方法論や、社会的合意形成を実現するためのプロセスデザインの手法、それらの根拠となる都市動態に関する科学的分析手法について、最先端の知見を得ることである。

本計画の背景

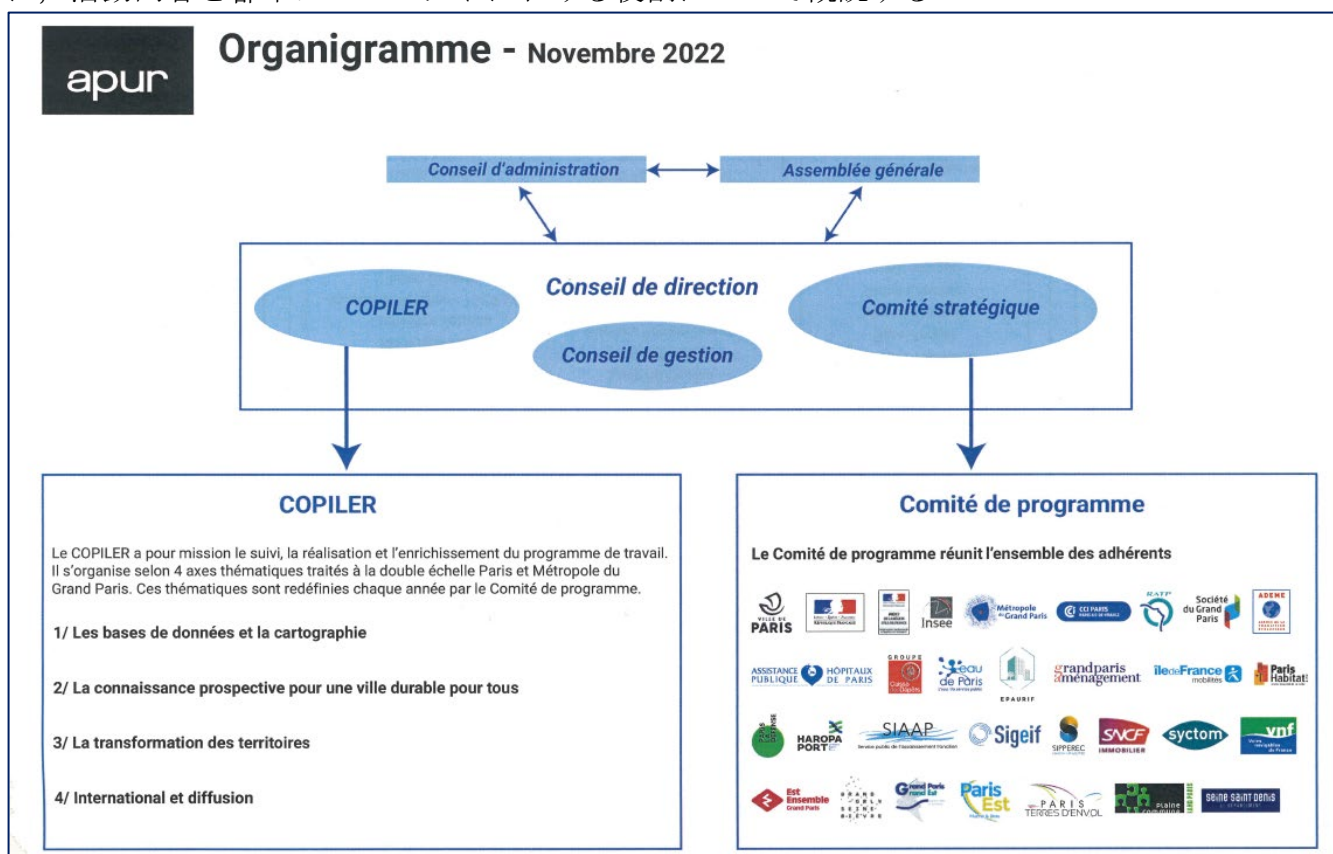
近年、国内外において、中心市街地の主要道路の大規模な歩行者空間化・広場化など、公共施設の機能転換にともなう再整備を、多主体協働で行うプロジェクトが数多く進められている。既存の都市環境を改変するにあたり、交通機能性（便利さ）・安全性（事故の少なさ）・にぎわいなど、互いに相反する考え方があり、これらのバランスを上手くとりながら将来的にどのような空間を目指していくか、対話を通じて丁寧に決める必要がある。この際、単なる住民説明会や協議会形式による形式的な合意形成を行おうとしても上手くいかない場合も多く、創造的な合意を導くための方法論の一つとして、**道路の活用のイメージや空間のビジョンなどを起点としたデザイン・ドリブン型の合意形成プロセス**が注目されている。

公共空間（再）整備に関する、フランス語圏特有の合意形成の制度として、**Concertation (コンサルタシオン)**と呼ばれる手続きが一般化されている。特に道路空間再編については、都市計画法典 R. 300-1 条において「3000m²以上の既存道路を歩行者専用空間に変更する開発行為について、同法典の L. 300-2 条で規定された形式で協議しなければならない」と定められている。これは、①行政による計画の草案をもとに、②公共事業の目的や内容、効果について市民に周知をはかるとともに、市民から意見を吸収して計画に反映させ、③計画の修正案について、行政・市民両者から中立な立場を持った審査委員が主体となる「Enquêtes Publiques (公的審査)」を実施し、④公的審査委員からの勧告をもとに市議会が計画決定（公益宣言）を行うものである。フランス・パリ市においては、近年、ラウンドアバウトの再編による広場整備や、自転車道の設置を伴う道路・交通再編、時間帯規制による歩行者天国の面的拡充などの道路空間再編プロジェクトが進められているが、その多くにおいてコンサルタシオンが実施され、特に②のプロセスにおいて充実した市民参加が図られている。

そこで、本渡航計画では上記のような公共空間再編プロジェクトについて、パリ市の都市計画部門の外郭組織として計画・実践を先導している APUR を研究拠点とし、①既に整備が完了したプロジェクトにおける交通計画・空間設計に関する行政資料、市民参加や社会実験の事後評価に関するデータを収集すること、②現在計画・整備が進められているプロジェクトについてコンサルタシオンの現場にオブザーバーとして実際に参加し、実務においてどのような課題があり、どのような解決を図っているか、という調整・合意形成の社会技術の抽出を行うことを目的とする。

APUR の組織体制について

パリ都市計画アトリエ (APUR) は、これまで日本人研究者の受入実績がなかったため、その内情について国内ではあまり知られていない。ここでは APUR の組織図 (出典: APUR HP) をもとに、活動内容と都市プロジェクトにおける役割について概説する。

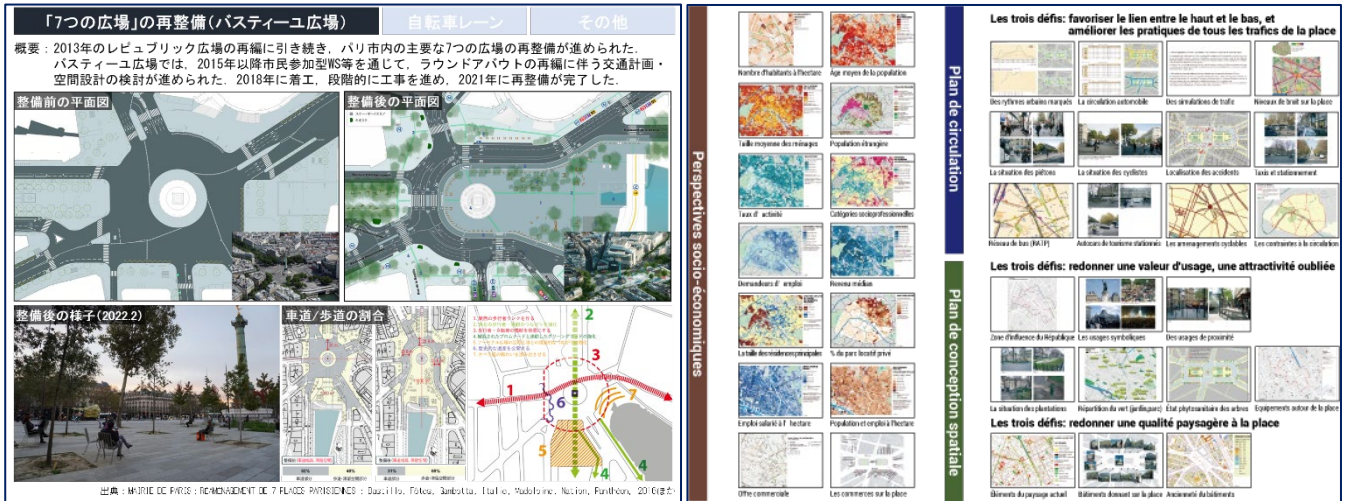


APUR は 1967 年に設立された非営利の研究機関であり、パリ市・メトロポール・デュ・グラン・パリ (Métropole du Grand Paris)・イル＝ド＝フランス地域圏 (Région Île-de-France) までの全てのスケールを対象に、都市動態 (都市/社会/経済/環境) と主要プロジェクトについての研究調査・文書化を行う研究機関である。財源の 97%は、上図右の「Comité de programme (プログラム委員会)」に属する約 30 の協働パートナーからの補助金で賄われており、中でもパリ市は補助金全体の 74%を拠出するなど、大きなプレゼンスを持っている。また、例えば APUR の職員がパリ市の公共空間再編部門 (DVD) に転職する (もしくは、逆も然り) など、職員レベルでもパリ市との交流・結びつきが強く、各種データの照会やプロジェクトの進捗管理など、研究・実践の様々な場面で綿密な連携が図られている。

APUR における研究・実践活動の実働メンバーは、研究者 (建築家/エンジニア/経済学者/地理学者/社会学者/人口学者/地図学者)、専門家 (GIS およびデータベースの専門家/ドキュメンテーション・出版・コミュニケーションの専門家)、その他 (人事、経理等) の計 85 人の職員から構成されている。プロジェクトごとにブティック型のチームが設置され、多様な専門分野間で連携を図りながら、最終的に報告書等のアウトプットを作成する。

①既に整備が完了したプロジェクトのデータのアーカイブ化

既に整備が完了したパリ市の主要プロジェクトとして、レピュブリック広場（2008～2013年）およびパリの7つの広場の再編プロジェクト（2015～2021年、左図）における、交通計画・空間設計に関する行政資料、市民参加や社会実験の事後評価に関するデータの収集を進めた。APUR アーカイブの検索（右図）、パリ市公共空間再編部門（DVD）、パリ市緑地整備部門（DEVE）へのデータ照会、ヒアリング調査を実施した。資料の一部は紙ベースでしか現存しないものもあったため、まずは各プロジェクトについてデータアーカイブを作成した（下図）。



Place de la	Titre du document	Année	Mois	APUR	DVD	TVK	Bazar Urbain	Contenu descriptif					Participation du public	Note	
								Circulation / Plan				Activités / Conception			Sociale et Économique
								Piétonne	Cycliste	T. Publics	Véhicule				
République	Approche tridimensionnelle d'une grande place – pôle d'échanges. Place de la République	2008	3	○	○	×	×	⊕	⊕	⊕	⊕	○	○	×	Cette étude a été réalisée par l'atelier dans le cadre du programme de travail 2007 et d'un contrat complémentaire avec la RATP en 2008.
	CONCERTATION PROJET D'AMENAGEMENT DE LA PLACE DE LA REPUBLIQUE, DIAGNOSTIC PISTES DE REFLEXION POUR LE PROGRAMME DU CONCOURS	2009	1	○	○	×	×	⊕	⊕	⊕	⊕	○	○	×	Diagnostic
	Place de la République en marches Décembre 2008 > Février 2009	2009	2	×	×	×	○	△	△	△	×	○	○	⊕	Concertation (décembre 2008 - mars 2009)
	> Marches commentées De la place de la République <	2009	2	×	×	×	○	△	△	△	×	○	○	⊕	
	SYNTHESE_Perceptions, enjeux et propositions issus des différents temps de la concertation	2009	3	×	×	×	○	△	△	△	×	○	○	⊕	
	BILAN DE LA CONCERTATION SUR LE PROJET D'AMENAGEMENT DE LA PLACE DE LA REPUBLIQUE DU 15 DECEMBRE 2008 AU 15 MARS 2009	2009	4	×	×	×	○	△	△	△	×	○	○	⊕	Réunion publique (公聴会) du 1er avril 2009
	(Le travail de concertation mené au cours de l'hiver 2009)	2009	hiver	×	×	×	○	×	×	×	×	○	○	⊕	Les kiosquiers
	CAHIER DES CLAUSES ADMINISTRATIVES PARTICULIERES_Maitrise d'oeuvre – phase offre (Ville de Paris)	2009	?	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	△	Spécifications de maîtrise d'oeuvre
	2010 DVD 112	2010	3?	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	△	Marché de maîtrise d'oeuvre
	2010 DVD 193_PROJET DE DÉLIBÉRATION EXPOSE DES MOTIFS	2010	6	×	○	○	×	○	×	△	△	○	×	○	Demande d'approbation des objectifs
	2010 DVD 193	2010	6	×	○	○	×	○	×	△	△	○	×	○	Objectifs pour l'aménagement
	2011 DVD 17_Bilan de la concertation sur les déplacements	2011	1	×	×	×	○	○	△	△	○	○	○	⊕	Concertation (juin 2010 - décembre 2010)
	2011 DVD 17_Bilan de la concertation sur les déplacements Annexe n°2	2011	1	×	×	×	○	○	△	△	○	○	○	⊕	
	2011 DVD 17_EXPOSE DES MOTIFS	2011	1	×	○	○	×	○	△	△	○	○	○	⊕	Enseignements de la concertation du public
	2012 DVD 192_PROJET DE DELIBERATION EXPOSE DES MOTIFS	2012	?	×	○	○	×	×	×	×	○	○	○	×	
2012 DVD 192_MARCHE DE MAITRISE D'OEUVRE AVENANT N°02	2012	?	×	○	○	×	×	×	×	○	○	○	×		
Dossier de presse - Place de la République (TVK)	2013		×	×	○	×					○				

収集した資料の分析により、パリにおける広場の再編プロジェクトにおける APUR の役割として、以下の5つを明らかにした。①レピュブリック広場のプロジェクトが実際に開始される2008年以前より、パリ市 DVD および APUR が協働でラウンドアバウトの交通量調査や周辺の土地利用、公共空間における人々の振る舞いなど、定量/定性両面での調査を行なった。②2008年のレピュブリック広場再編プロジェクトの開始時に、APUR が現状分析、再整備による交通への影響のシミュレーションの他に、これらのデータの蓄積に基づき、**広場の空間デザインのコンセプトについて素案の提案を行なった。これがその後のコンサルテーションにおけるデザインの叩き台となった。**③コンサルテーションでは、APUR の提示したデザイン素案をもとに、

公共空間の利活用の検討や、街のシンボルとしての広場の役割の再発見など、道路の目標空間像を形成・成熟させていき、目標像を設計案に段階的に反映させ具体化させながら合意形成を図っていった。④レピュブリック広場のプロジェクトにおける以上のスキームを、その後の7つの広場のプロジェクトにおいても適用した。この際、これまで APUR が果たしていた「デザイン素案作成」「コンサルタシオンを通じたデザインの具体化」の役割を、**民間の設計事務所を中心とする専門家・住民の協働設計チーム Collectif (コレクティブ) に移譲**した。これにより、**複数の大規模プロジェクトを同時多発的に進めるための人的リソースの確保と持続的なプロジェクト運営、DVD・APUR による市全体のスケールでのデザイン・交通マネジメントの実現が可能であった**。⑤一連のプロジェクトの報告書作成も APUR が担っており、各広場のデザイン案の形成過程や、主要な検討項目、合意形成における課題、その解決方法について網羅的に情報が整理された。一方で、プロジェクト完了後の交通・空間利用に関する事後評価については、データの蓄積は一定あるものの体系的な整理は進められていないため、今後の課題となっている（今後の展望）。

なお作成したデータアーカイブについては、取り扱うデータの性質上、原則非公開となっているが、今後外部公表が可能なデータを選別・整理し、日本も含めた国内外から閲覧可能なパブリックアーカイブとすることを検討している。

②実プロジェクトへの参加・コンサルタシオンの手法に関するデータ収集

現在、パリ市で計画が進められている主要な公共空間再編プロジェクトの一つとして、「フェリックス・エブエ広場 (Place Félix Éboué)」のラウンドアバウト再編事業に、オブザーバーとして参加した。具体的にどのような方法でコンサルタシオンを実施し、収集された意見をどのように設計案に反映しているのか、デザイン・ドリブン型の合意形成とデザインプロセスの実態について現地調査を行った。

Calendrier de la concertation réalisée par La Belle Friche & TraitClair

5 octobre -5 décembre	Urne et questionnaire papier à la mairie, points infos sur la place
7 octobre, 10h-13h	<i>Information et animations au kiosque citoyen</i>
12 octobre -5 décembre	Ouverture de la participation en ligne sur DECIDER.PARIS.FR
18 octobre, 16h-19h	<i>Information et animations au kiosque citoyen</i>
18 octobre, 20h-22h	Marche exploratoire urbaine de nuit
19 octobre, 14h-16h	Marche exploratoire urbaine de jour
25 octobre, 14h-17h	<i>Information et animations au kiosque citoyen</i>
4 novembre, 10h-13h	<i>Information et animations au kiosque citoyen</i>
8 novembre, matin	Atelier commerçants et marché
8 novembre, 14h-16h	Atelier mobilités et accessibilités
8 novembre, 16h-19h	<i>Information et animations au kiosque citoyen</i>
18 novembre, 19h-21h	Atelier confort et usages
25 novembre, 10h-13h	<i>Information et animations au kiosque citoyen</i>
5 décembre, soirée	Réunion publique de restitution

参加したスケジュールは上図の通りである。10月5日の公聴会 (Reunion Publique) を皮切りに、実際の現場に情報ブース (Points infos) やキオスク (Kiosque) を設置し、住民への情報共有と意見収集を開始したほか、10月には2回の住民参加型現地調査 (Marche)、11月には2回のワークショップ (Atelier) を実施し、現状の広場の課題抽出とその解決方法の検討を行った。住民へ共有した主な情報は、現状の朝/夕ピーク時交通量、公共交通の路線網、自転車レーンの設置計画、緑地の整備状況、水道管等の地下施設の配置図である。

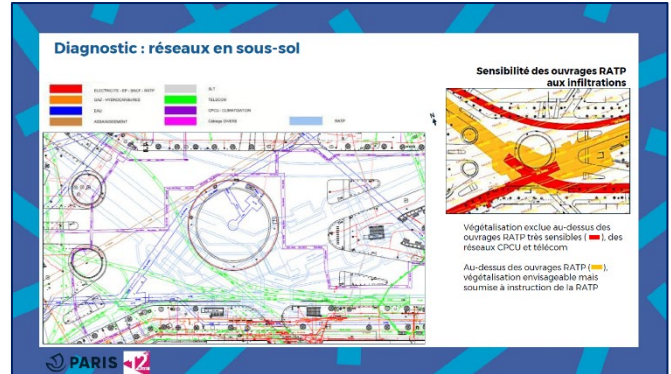
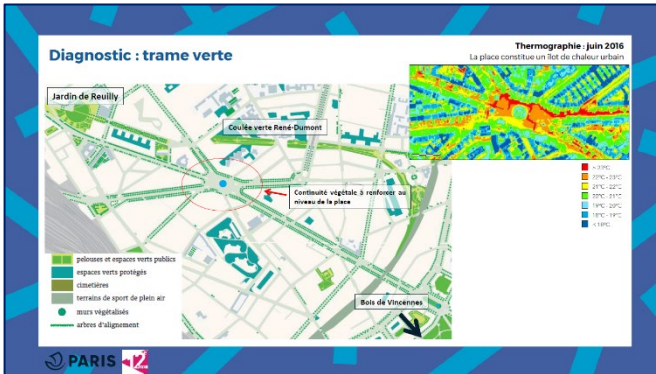


Concertation

sur le réaménagement de la

Place Félix Éboué

 Réunion publique de lancement : 5 octobre 2022



2022年10月5日の公聴会（Reunion Publique）にて配布された資料



2022年11月4日のキオスクでの情報共有の様子

これらのコンサルタシオン・プロセスの現場には、パリ市 DVD の担当者や設計担当者、パリ市警察、広場の位置する 12 区長など各方面の担当者が必ず参加し、市民が直接意見や質問することができる体制を整えている。実際の現場で開かれた市民参加を行うことで、もともと本プロジェクトに興味を持っていなかった層にもアプローチすることが可能となり、プロジェクトの認知度を高めるのみならず、多角的な視点で現状の課題を発掘し、デザイン案をアップデートする機会となっている。

また、本プロジェクトのコンサルタシオンの特徴としては、先のレピュブリック広場や7つの広場におけるコンサルタシオンの成果を参考に、住民との協議を通じて優先的に具体化や可否判断を行う（ことが望ましい）検討項目をリストアップしていることが挙げられる。特に重要な検討項目として、再整備後の空間利活用に関する市民のニーズを正確に把握することが重要であるとされている。例えば、本広場の周辺では、広場の南側の道路で週 2 回地元のマルシェが開催されており、地域住民や商業者にとって欠かせない利活用となっている。そこで本プロジェクトでは、マルシェ開催時の空間利用形態や歩行者動線、荷捌きの駐停車のニーズを聞き取り調査し、そこで必要となる機能を優先的に配置したうえで、それ以外の検討項目（交通計画、植栽配置など）について、ビジュアルベース（平面計画図、パース）で協議を進めている。設計担当者が直に一般市民の意見を聴くことで、**必ずしも専門的なボキャブラリーを持たない利用者のアイデアを汲み取り、実際の空間設計に落とし込む**ことにつなげている。また、空間再編を通じてマルシェの配置についてもさらに改善できる余地があるのではないかと、という意見が挙げられるなど、**広場の設計の範囲を超えた相互的・相補的なデザイン案の修正も行われている**。実際にこのようなデザイン案の修正が地域住民との合意形成にも寄与しており、例えば当初はラウンドアバウトの半分を車通行禁止とする案に対して周辺道路での交通渋滞の増加を懸念する声が地域住民から多く上がっていたが、マルシェの荷捌き専用の駐車場の位置について再検討し、広場の交差点部の動線をスムーズにすることで渋滞の緩和を図る修正案を示したことで、反対派からも一定の理解を得た。

このようにフェリックス・エブエ広場のプロジェクトでは、**「マルシェを通じた市民の交流の場」という空間像に主眼を置き、そのイメージをもとに交通計画の調整を行い、合意形成を図っている**。現地調査により、パリ市における道路空間再編プロジェクトでは、**①歩行者空間のにぎわいなどの道路の活用イメージや空間のビジョン・コンセプトが、多くの市民を巻き込む原動力となり、②市民と設計担当者との隣地的かつ相補的なデザイン検討により、計画の合意形成の達成や、市民の活動や空間管理への積極的参画に寄与している**ことが明らかになった。

今後の展望 Prospects for the future

本渡航計画を通じて、当初の研究目的に従い、公共空間再編におけるデザイン・ドリブンの計画調整や合意形成の手法について知見を得ることができた。特に実際に現地でコンサルタシオンに参加したことで、市民への情報共有・意見収集やビジュアルライズの具体的な方法など、国内において協働デザインを進めるにあたり有用となる直接的なヒントを多く得ることができた。今後そのノウハウを体系的にとりまとめ、実務者向けのハンドブックとして公開する。

一方、パリ市においては、主要なプロジェクトの後の事後評価について体系的に取りまとめられておらず、プロセスデザインやプロジェクトマネジメントのノウハウが十分にその後のプロジェクトに十分に活かされていらない、という新たな課題も浮き彫りとなった。これについて、帰国後も継続的に APUR およびパリ市 DVD の職員と連絡を取っており、今回の調査で入手した資料をもとに協働で報告書を作成する予定である（2023 年目途）。

最終的に、これらの取りまとめをベースに、国内におけるデザイン・ドリブン型の道路空間再編プロジェクトの実現を視野に入れながら、博士論文を執筆することを今後の展望とする。